



第5回

関西リンパ浮腫治療研究会 が

2月24日（土）に

マイドームおおさか にて開催されます。

同研究会では、

リハビリテーション科

畑山 幸穂 理学療法士 の学術発表が

ありますので、お知らせいたします。



Live with Lymphedema

第5回 関西リンパ浮腫治療研究会

会期：2018年2月24日(土)

当番世話人：

今井崇裕(西の京病院血管外科)

石川理恵(いしかわ治療室)

会場：マイドームおおさか

特別講演

原 尚子 先生 (JR東京総合病院 リンパ外科・再建外科)
『リンパ浮腫外科治療のUp To Date』

11:30~13:00 ドレナージ講習会

13:30~16:30 治療研究会

*LT更新クレジット各2単位



事務局: 医療法人康仁会 西の京病院血管外科
〒630-8041 奈良県奈良市六条町102-1
TEL: 0742-35-1276

主催: 関西リンパ浮腫治療研究会
<https://kansai-lets-group.jimdo.com/>
*事前参加登録を受け付けいたします

「充実したリンパ浮腫教育入院を目指して ―療法士の取り組み―」

○畑山幸穂¹ 砂川夏絵¹ 明道知巳¹ 和田小百合² 黒瀬満梨奈² 今井崇裕³

1 西の京病院 リハビリテーション科

2 西の京病院 看護部

3 西の京病院 血管外科

NATSUE SUNAGAWA¹、YUKIHO HATAYAMA¹、TOMOKI MYOUDO¹、SAYURI

WADA²、MARINA KUROSE²、TAKAHIRO IMAI²

1 Department of Rehabilitation, Nishinokyo Hospital

2 Nursing Department, Nishinokyo Hospital

3 Department of Vascular, Nishinokyo Hospital

抄録

リンパ浮腫はがんの手術や放射線治療などに続発する後遺症で、全がん治療者の25～30%に発症するといわれている。一度発症すると治癒は難しいが、適切な処置を行えば良好な状態に保つことが可能である。そのため一度診断を受けると医療機関への通院、セルフケアを継続的に行うことになる。早期の治療が効果的で良いとされているにも関わらず、認知度の低さや治療に関わる地域医療機関が少ないために重症化した後、当院へ紹介となった症例が見受けられる。

当院ではリンパ浮腫患者に対して集中排液を促すことを目的に教育入院制度を導入している。医師、看護師、療法士がそれぞれ役割分担して患者や患者家族に関わり、患肢を退院後もセルフケアを自立して行えるように指導している。

教育入院の内容として、看護師による巻き上げ、スキンケアの指導、療法士によるリンパドレナージ、圧迫した上での患肢の運動指導を行っている。

当院の抱えている問題点としては、当初リンパドレナージを「運動器リハビリテーション（I）」1単位180点で算定していた。しかし、保険組合の指導が入り2015年11月より「消炎鎮痛等処置マッサージ等の手技による治療」1日35点に変更された。病院経営的な側面で一人の患者に対する治療時間の制約が生じているのが現状である。またリンパドレナージを行う場所は、複数の患者が利用するリハビリ室であり、リンパ浮腫患者に対して個室を用意するということが難しく、羞恥心や安心して受けられる環境設定が不十分であることも問題となっている。

以上の経緯から治療時間の制約や環境設定の側面で課題を有している。今後のリンパ浮腫患者が効率的に治療を受け、セルフケアの獲得が可能となるために、他職種との連携の方法や治療を行う環境設定について検討した。